

候ハ、主人之方相斷、檢校之支配請べし、
一百姓町人之悴之盲人にても、琴、三味線等針治、導引を以渡世不致、親之手前に罷在候而已之者
并武家江被抱、主人之屋敷又は主人之在所江引越、他所之稼も不致分者可爲制外事、
右之通可相守旨、不洩様可被相觸候、

十一月

〔天保集成絲綸錄 八十〕天明八申年八月

寺社奉行 江

天明五巳年被仰出候通、其節迄無支配ニ而罷有候盲僧は御配下に被加、且其以後御配下を相願
候盲人は、武家陪臣悴之分計御配下ニ被加、縱地神經讀誦竈祓等之類、盲僧之致作業候而も、檢校
支配ニ付來候分は、御配下ニは不相成事候間、相廻され候家司共、先々ニおゐて彌紛敷取扱無之
様可致候若紛敷儀於有之は、急度御沙汰可有之旨、家司共江、猶又嚴敷申聞置候様、青蓮院宮坊官
江可被相達候、

文化二丑年五月

檢校之支配可請盲人之儀ニ付、去申

八〇天明八年

十一月御觸有之、且又檢校之支配可請盲人共は、住所

名前相認、本所一ツ目總錄方江

相届ケ可申旨、當酉四月御觸有之、其度々町中觸知らせ置候處、今

以總錄方江

届不申出、族多有之由、不埒之至ニ候、右御觸之趣、名主家主共より盲人共江、銘々申聞

候ハ、總錄方江相届候儀、遲滯可致様無之事ニ候、若等閑ニ致置、御觸承知不致、族有之、右之通ニ

候哉、前書之趣、名主共得と致承知、家主共より申聞、檢校之支配可請盲人之分ハ、住所名前相記、早

早總錄方江罷越候様可致候、

但琴、三味線等針治、導引を以渡世不致、親之手前に罷在、總錄之支配不請もの共も、名主支配